

薬剤師になって登場

数年前、40歳の男性が来局されました。小さいころ、店の近くに住んでいて、地域の小学校を卒業したといいます。

「父に頼まれて、二日酔いの胃腸薬を買いに来たこともあります」

「将来は薬剤師になって、宮川薬局のような薬局を」と薬科大学へ進み、無事、薬剤師になりました。

製薬会社のプロパー(医薬情報担当者)を経験して、福島にある調剤薬局に勤務。結婚もして子どもができ、家も建て、安定した生活をしながら、資金を貯めていました。

何でも、「40歳になったら開局するんだ」と、最初から考えていたそうです。

ただ、いざ開局となっても、調剤薬局の開業マニュアル本はいろいろあるものの、OTC医薬品を主軸とした薬局については、見当たらないといいます。

そこで、「小さいころ行ったことのある宮川薬局は、まだやっているだろうか」と、プロパー時代に鍛えた飛び込みの要領で、やって来たという次第です。

私は、彼のような根性のある人が大好きなので、「まず、ここに座って!」と、お話を聞き始めたのですが、実はビックリしました。

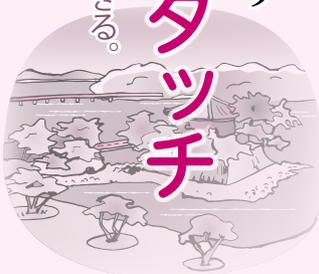
もう、調剤薬局を退職してきたというのです。ある薬局の研修団体の入会案内書が用意してあったので、その入会を勧め、細かく説明しました。そして、開業する地区の薬局薬剤師のI先生を紹介してあげました。

店頭から 「こんにちわ」

第122回

教えられたことを次世代へ伝える日々を過ごす
受け継いだ大切なことをバトンタッチ

一生を通じ、自分が知らない間に、目標としていた人と、感動的な出会いができる。そうしたこと、ありそうで、実はなかなかあるものではありませんが…。



翌日、I先生に、いきさつを話すと、すでにその男性から連絡があり、会う予定とか。その段取りのよさと行動力、やる気に感服しました。

翌年には、東北6県の研究会で、正会員となった彼と再会できた次第。その後も、福島の支部で活躍されているようです。

先輩薬剤師からの手紙に…

大学の薬学部が、4年制から6年制に変わったときのこと。5年生になると、病院や薬局で、実務実習を受けることが義務づけられたのです。

ある年、学校薬剤師の業務の実務実習を受けに、女子大生がやってきました。

小学校へ出向いて、学校薬剤師の業務を教えているとき、母親が薬剤師であることを知りました。それが何と、私が開局して間もない若いころ、いろいろ教えていただいた先輩薬剤師だったのです。

実務実習を終えた数日後、先輩薬剤師の方から、お礼の手紙が。

私たちの年代から次の年代へと、「こうしてバトンタッチしていくんだなあ」と感じ入る一幕でした。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士・薬剤師
みやがわとしじ

宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「寒い時季ですが、体調はいかがですか?」

